

～道内建設業担い手確保助成事業について～

北海道建設業信用保証㈱では、従来から取り組んでいる「道内建設業担い手確保助成事業」を2024年度～2028年度の5か年事業として、継続的に助成してまいります。

道内建設業担い手確保助成事業は、「担い手となる若い世代に直接助成が行き届く」という基本方針を継続しつつ、「建設業界の人材定着」にも焦点をあて、建設業団体や教育機関の要望を把握しながら2024年度～2028年度までの5年間で総額1億円を助成してまいります。

今年度からの新規事業としては、空知建設業協会の「若手育成研修会」、日建連北海道の「建設業現場見学会」を助成の対象としております。「若手育成研修会」では、若手職員を対象に次世代のリーダーとして必要な基礎的な指導スキルを学ぶ研修を開催します。「建設業現場見学会」では、室蘭工業大学の学生を対象とした現場見学会を実施します。

北海道建設業協会が実施した高校生アンケート調査では、将来の仕事に関する情報源として利用する媒体が、企業ウェブサイトや就職サイトよりもSNS、とりわけインスタグラムの利用が多く、建設現場の写真や動画を見たいというニーズが最も多いという結果となっております。当社では、同協会の助成対象事業である「現場見学会」と連動し、提供いただいた見学会の写真や動画をInstagram上で発信する取り組みも行っているところです。



↑北海道建設業協会「現場見学会」報告書



引き続き「北海道の建設業の持続発展への支援とその魅力の情報発信」を目標とし、本年度も北海道建設業協会をはじめ、各建設業団体の皆様や、昨年度発足した建設イノベーション・コンソーシアムと連携し、業界全体で幅広く情報を発信してまいります。併せて、コンストラクション甲子園等、各建設業団体において企画される新たな取組への積極的な支援を通じて、道内建設業における入職促進・人材育成に貢献して参ります。



～Instagram でみる道内助成事業～

北海道建設業信用保証㈱は、職員有志で運営するInstagramアカウント「HCSインスタ部 (@hcs.instaclub)」にて、弊社の担い手確保助成事業の様子を取り上げました。

2026年6月5日（写真上）、9日（写真下）に旭川市にて開催された現場見学会の写真です。

【現場見学会 in旭川】



旭川建設業協会様主催で、旭川工業高校 建築科3年生を対象に開催されました。学生の皆さんはこの日、建築主体工事の現場を見学したあと、コンクリート製造現場の見学をしました。

【現場見学会 in旭川】



旭川市立共栄小学校・東光小学校に通う5年生を対象に、除雪機械の試乗体験、ドローンのデモ飛行見学、高所作業車の試乗体験を行いました。

URL : <https://www.instagram.com/hcs.instaclub/>

右の二次元コードを読み込んでいただくと、
お手持ちのスマートフォン・タブレットで詳しくご覧いただけます。

フォロー・いいね・コメントお待ちしております！

↓ HCSインスタ部



@HCS.INSTA CLUB

SNS担当者交流会

●5月14日稚内市にて、道内建設会社の有志が参加・運営する「SNS担当者交流会」が開催されました。今回は、交流会に参加した弊社社員（元SNS運用担当）の報告を掲載いたします。

●概要

「SNS担当者交流会」は、道内建設会社のSNS発信担当者有志が、ノウハウや日々の悩みを共有するべく開催している交流会です。2024年9月、自社でのSNS運営に早い時期から注力されていた、福津組（本社・古平）・横関建設工業（同・倶知安）・中田組（同・稚内）の担当者が発起人となり第1回が開催され、以降、業界における自社のSNS発信を共通のテーマに掲げ、交流や学びの場として活動しています。

第4回までは札幌市を会場に開催してきた本交流会ですが、道内の広い地域で交流の機会を促していくという観点から今回は稚内での開催となり、全道から年齢性別も幅広く12社20名が参加しました。



●課題への共感とノウハウの共有

交流会ではグループに分かれての議論や全体発表の時間が設けられており、各社のSNS発信に関する手法やコツについて具体的なお話を伺えます。その中で感じたのは、各社の持っている強みや抱える悩みが様々だということです。多くの会社が集まるからこそ、課題に感じている点を互いに共感しあえますし、様々な強みを持ち合わせた会社が集まるからこそ、課題解決へ向けたノウハウを互いに共有しあえます。

会を通して、事前に設定されていたディスカッション用の議題以外にも、各担当者の抱えている不安や課題が会話の中で漏れ出した際に、共感や、役立つノウハウの共有がごく自然なものとして行われている点が印象的でした。

●各社のSNS活用事例の紹介

弊社ではSNSを活用して、弊社の実施する「道内建設業担い手確保助成事業」についての発信を行っています。SNSの運用目的は各社で多岐にわたります。

SNSを採用活動の一環として活用されている会社からは、投稿内容の工夫によって女性技術者の採用・都市部からのIターン採用に繋がった事例が共有されました。勤務条件や待遇等の、数値からは伝わらない会社の雰囲気が発信できるように工夫した点や、都市部から離れた地域だからこそ、会社の所在地に関する情報を投稿して、移住後のイメージが湧きやすいように工夫した点が有効だったのではないかと振り返ります。

交流会の中で実施された、(株)中田組 中田代表の講話では、自社のSNS運用が社員同士のコミュニケーション増加や離職者の減少といった、思わぬところへ波及している事例が紹介されました。建設業という業種柄、同じ会社でも職員同士が顔を合わせにくいという障壁が、SNS投稿によって緩和されたことや、社員の家族がSNSをチェックすることが、仕事への安心感や理解の深まりに寄与していると話されていました。

他社のSNS活用事例についてお話を伺う中で、SNSの発信力の強さを改めて実感するとともに、運用目的に沿って工夫を凝らすことの重要性や、SNSの活用が自社の情報・魅力発信に有効な手段であることを再認識しました。

●まとめ

SNSを運用して自社をPRする動きが活発化してきているとはいえ、各社のSNS担当者は1～2名という会社が多い印象です。そのようななかで、社内で共有・相談しにくい悩みを互いに語り合い、情報交換ができるこの交流会は貴重な場だと感じています。

次回は8月にSNS担当者として経験1年未満の方を対象とした「初心者交流会」も開催されるとのこと。道内SNS担当者同士のリアルな交流の輪が広がっていくことで、発信力や結束力の強化につながることを期待しています。

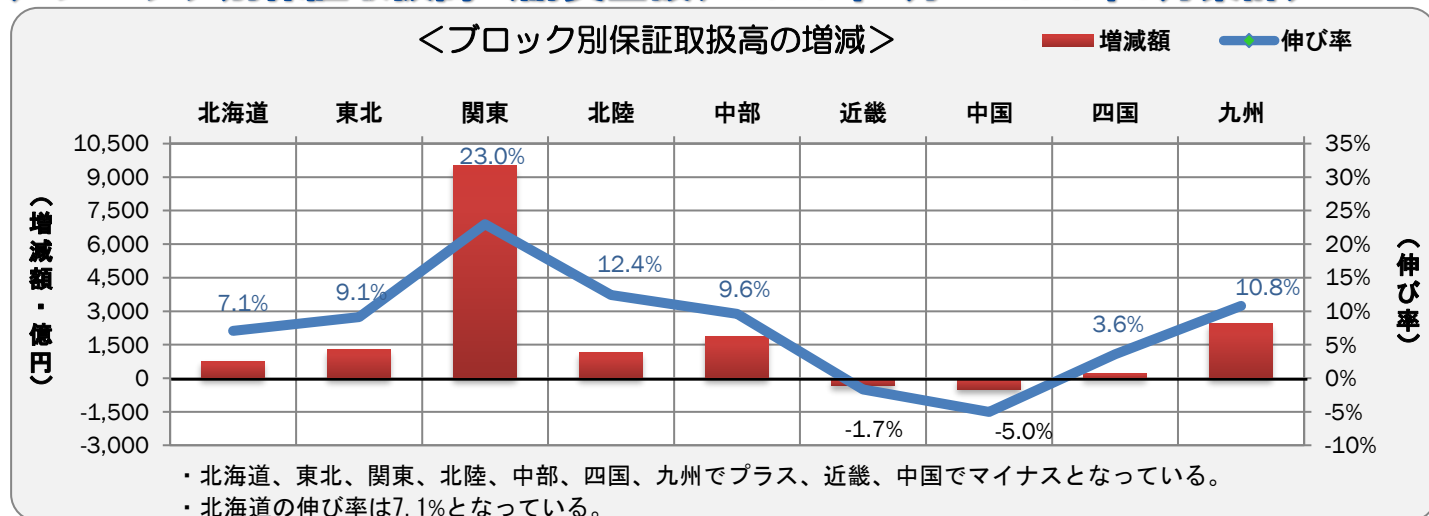




一目でわかる建設業データ

数字でみる公共工事

◇ブロック別保証取扱高（請負金額、2025年4月～2026年3月累計）



○請負金額3月累計額（3保証事業会社調べ）

（金額単位：百万円）

	請 負 金 額	構 成 比	前年同期比較	
			増 減 額	伸 び 率
北 海 道	1,168,175	7.0%	77,055	7.1%
東 北	1,527,388	9.1%	127,833	9.1%
関 東	5,089,186	30.3%	951,029	23.0%
北 陸	1,030,961	6.1%	113,873	12.4%
中 部	2,134,567	12.7%	187,233	9.6%
近 畿	1,788,243	10.7%	-30,747	-1.7%
中 国	917,229	5.5%	-48,568	-5.0%
四 国	609,381	3.6%	21,090	3.6%
九 州	2,519,890	15.0%	245,156	10.8%
全 国	16,785,024	100.0%	1,643,953	10.9%

北海道の建設業景況調査（2025年度第4回・1月～3月）

◇調査の概要

＜調査目的＞

北海道の建設企業の経営動向調査を行い、建設業のおかれている状況を総合的に迅速かつ的確に把握することを目的としています。

＜調査対象＞

当社と取引関係にある建設企業の中から、地区別、業種別、規模別の分布状況を考慮して、建設業の経営動向を反映するに足りると認められる企業を対象としています。

2025年度第4回の回答企業数は231社（調査対象245社、有効回答率94.3%）です。

業 種 別	回答企業数	完工高別	回答企業数
土 木	120	3億円未満	29
建 築	20	10億円未満	63
土木・建築	63	30億円未満	95
設 備	28	30億円以上	44
合 計	231	合 計	231

＜B.S.I.とは＞

この建設業景況調査は、景気等に関して個々の建設企業の意識調査を行ったものです。この意識調査の結果を数値化して表したものが、B.S.I.（ビジネス・サーベイ・インデックス＝景況判断指数）です。

＜B.S.I.の求め方＞

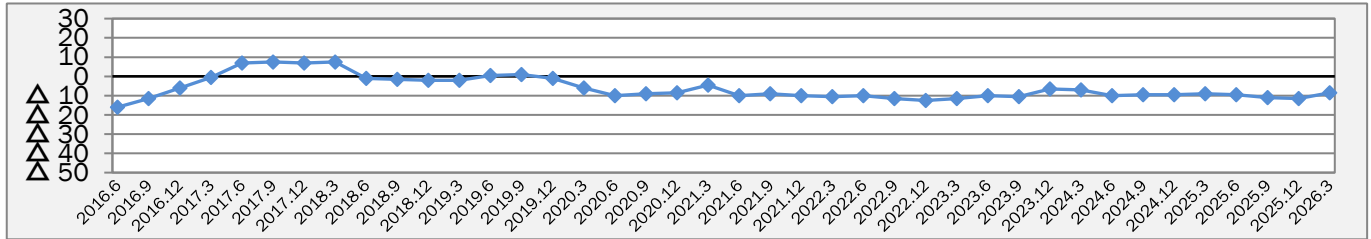
景況調査の集計結果から、以下の方法によりB.S.I.が求められます。

$B.S.I. = ([\text{良い} \cdot \text{やや良い}] \text{と回答した企業割合} - [\text{悪い} \cdot \text{やや悪い}] \text{と回答した企業割合}) \times 1/2$

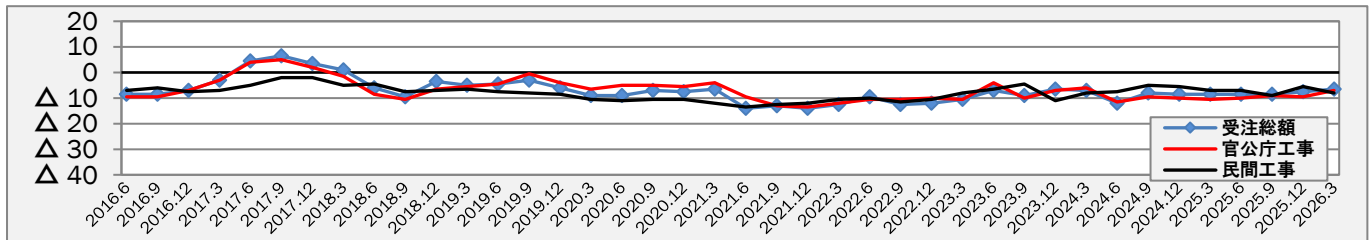


◇B.S.I. (ビジネス・サーバイ・インデックス=景況判断指数) の推移

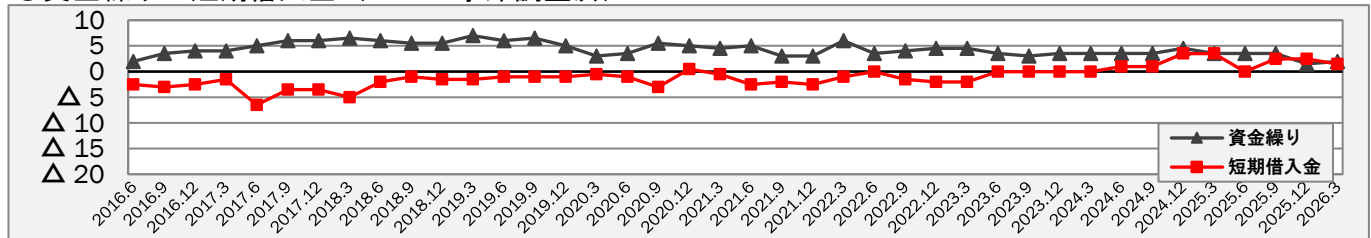
○地元建設業界の景気 (B. S. I. 季節調整済)



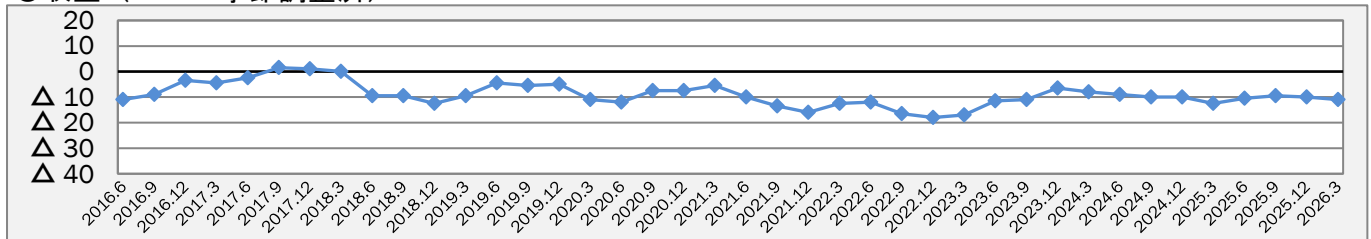
○受注 (B. S. I. 季節調整済)



○資金繰り・短期借入金 (B. S. I. 季節調整済)



○収益 (B. S. I. 季節調整済)



◇建設関連政策の動向

「今後の建設業政策のあり方に関する勉強会」とりまとめ

勉強会とりまとめの中で、今後、建設業が目指す姿として、①「人を大事にする」産業、②真に「経営力」のある産業、③「未来に続く」産業という3つの視点が提示された。

国土交通省 中東情勢への対応

国土交通省は、中東情勢の変化を踏まえた建設工事の円滑な施工のための対応について、4月8、14、30日、5月27日の4回にわたり、建設業団体等に対して依頼・周知した。

全建 3度の緊急要望

全国建設業協会は、4月に金子国土交通相、6月に高市首相、7月に片山財務相に「骨太の方針」策定に向け、資材価格の高騰や人件費の上昇を踏まえた公共事業費の確保等を訴えた。

女性活躍♪けんせつ産業ナビゲーターの任命

国土交通省は、建設産業の魅力とともに、これまで国土交通省や関係団体が作成してきた各種事例集についてSNSで情報発信を行うため、「令和8年度女性活躍♪けんせつ産業ナビゲーター」に、ほくりくアイドル部の皆さんを任命した。

ワールドカップ、日本VSブラジルの試合を中継で見た。佐野選手の美しい先制ゴールにすっかり目が覚める。結果は残念であったが日本代表が極限まで集中してプレーする姿に胸が熱くなった。試合が終わり久々にパンゲリスのアンセムを何度も聴いていた。私にはこの曲がワールドカップの原点だ。日本VSロシア戦の映像も見返した。稲本の先制点やクロスバーに跳ね返される中田のロングシュート。ブラジルとの試合はこの試合を思い起こさせる。ここから日本代表は20年の時を経て何という高みに到達したことか。日韓ワールドカップの優勝国はブラジルであり、そのブラジル相手に「勝てるかもしれない」という希望を持てるどころまで成長している。ジョホールバルの岡野のゴールから動き出した壮大な「坂の上の雲」の物語を体感させて頂いている。ありがたいことだ。他の試合ではドイツVSパラグアイの試合が印象深い。PKの末パラグアイが勝利したがボール支配率は24%。先制ゴールを固い守備で守り切る。試合後アルファロ監督の「劣勢は新しいことではない」という発言。この冷静な透き通った心境も素晴らしいと思った。ところでやや職業病的な目線で語れば、日本代表メンバーの大半が今や欧州で活躍している。今、1ユーロは大体185円前後。欧州組は報酬において相当の円安メリットを得ているに違いない。円安問題は物価との関係で語られているが、同時に円で業績・報酬を評価されている人々の国際的な価値を急速に下げている。日本の大学教官は欧米の大学教官の3分の1位の報酬であるとも言われる。円安の継続が長期的には様々な分野で人材の国外流出をもたらすことになるだろう。当社は、株主総会の後の取締役会において「北保証経営Vision」と3年間の経営方針「中期経営方針」を策定した。会社創業100年を見据えて当社自体の組織力に加え「個」の力を着実に高めることが出来ればと願っているところである。(H.S)